

令和 5 年度

全国学力・学習状況調査結果の分析

令和 5 年 9 月

四日市市教育委員会



目 次

1	全国学力・学習状況調査結果の5年間の推移	P 2
2	教科別 正答数分布グラフ	P 4
3	校種・教科別 調査結果概要	P 6
4	今後の授業改善のポイントについて 【小学校…国語・算数】【中学校…国語・数学・英語】	P 11
5	児童生徒質問紙の結果について	
(1)	教科の意識に関する質問	P 16
(2)	「学習の基盤となる力」に関する質問	P 21
(3)	「キャリア教育」に関する質問	P 26
(4)	学校生活等の意識に関する質問	P 28
(5)	生活習慣と学力の関連	P 30
6	学校質問紙の結果について	
(1)	全国学力・学習状況調査問題の活用	P 33
(2)	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 に関する取組状況	P 33
(3)	個に応じた指導	P 35
(4)	小学校教育と中学校教育の連携	P 35
(5)	I C Tの活用	P 36
(6)	家庭学習	P 37
7	今後の取組の重点	P 38
8	参考資料	P 40

1 全国学力・学習状況調査結果の6年間の推移 (H29～)

※ 平成29年度から、文部科学省の結果提供（平均正答率）は、本市と三重県は整数値、全国は小数値となっています。

※ 令和元年度より、A問題（知識）とB問題（活用）の区分が見直され、一体的に構成されています。

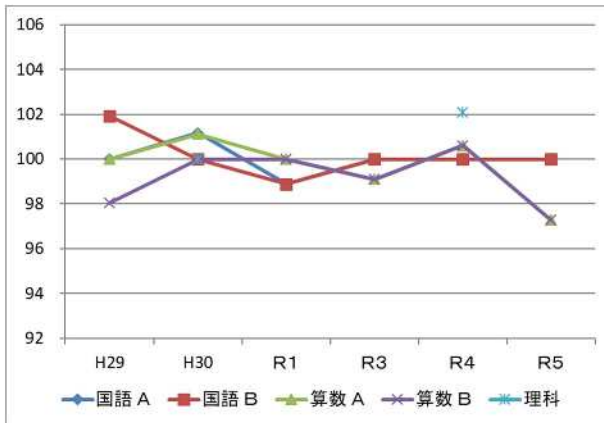
※ 数値は平均正答率。

小学校		国語		算数		理科
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)	
平成29年度	本市	75	59	78	45	
	三重県	74	57	77	45	
	全国 (公立)	74.8	57.5	78.6	45.9	
平成30年度	本市	71	55	65	51	60
	三重県	70	54	63	50	59
	全国 (公立)	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
令和元年度	本市	63		66		
	三重県	64		67		
	全国 (公立)	63.8		66.6		
令和3年度	本市	65		70		
	三重県	64		69		
	全国 (公立)	64.7		70.2		
令和4年度	本市	66		63		65
	三重県	65		62		63
	全国 (公立)	65.6		63.2		63.3
令和5年度	本市	67		61		
	三重県	67		62		
	全国 (公立)	67.2		62.5		

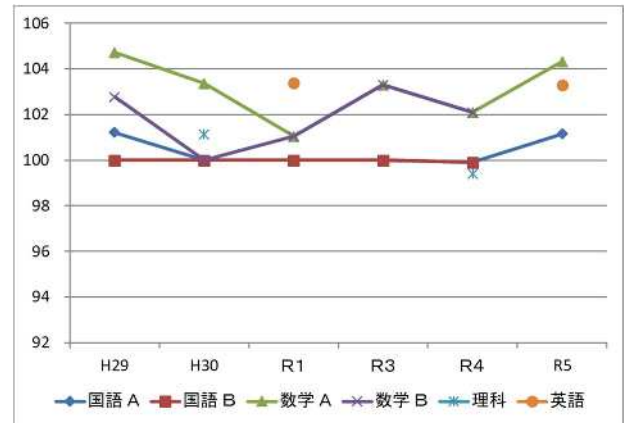
中学校		国語		数学		理科	英語			
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)		聞く	読む	書く	話す
平成29年度	本市	78	72	68	49					
	三重県	77	71	65	47					
	全国 (公立)	77.4	72.2	64.6	48.1					
平成30年度	本市	76	61	68	47	67				
	三重県	75	60	67	46	66				
	全国 (公立)	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1				
令和元年度	本市	73		61			58			
	三重県	72		60			56			
	全国 (公立)	72.8		59.8			56.0			
令和3年度	本市	65		59						
	三重県	63		58						
	全国 (公立)	64.6		57.2						
令和4年度	本市	69		52		49				
	三重県	68		52		48				
	全国 (公立)	69.0		51.4		49.3				
令和5年度	本市	71		53			47			
	三重県	69		51			45			
	全国 (公立)	69.8		51.0			45.6			

○ 各教科別調査結果から(全国の平均正答数を100としたときの本市結果の経年変化)

小学校

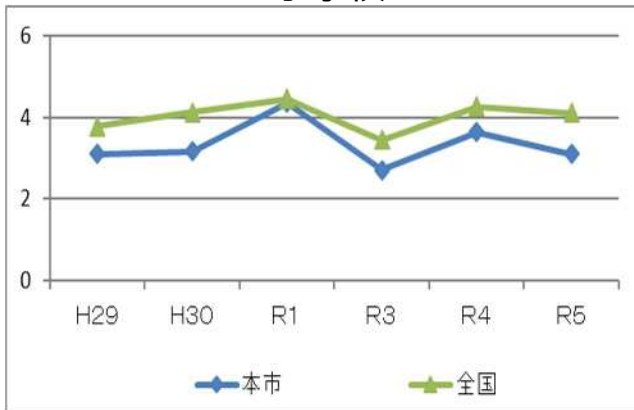


中学校

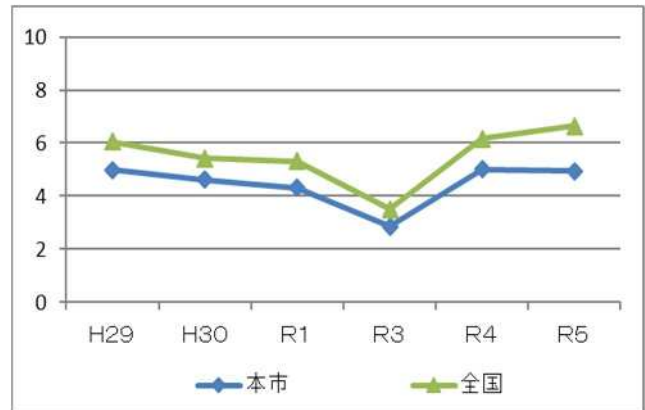


○ 無解答率の経年変化(各教科の無解答率の平均)

小学校



中学校



小学校は国語が全国平均同等、算数が全国平均を下回る結果でした。

中学校は国語・数学・英語のすべてにおいて、全国平均以上の結果でした。

		強み	弱み
小学校	国語	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
	算数	伴って変わる二つの数量の関係が比例関係であることを説明すること	2つの三角形の面積の大小を、底辺と高さに着目して判断すること
中学校	国語	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと	文脈に則して漢字を正しく書くこと
	数学	根拠と成り立つ事柄を示して理由を説明すること	空間における直線や平面の位置関係を捉えること
	英語	文と文との関係を正確に読み取ること 言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むこと	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えること

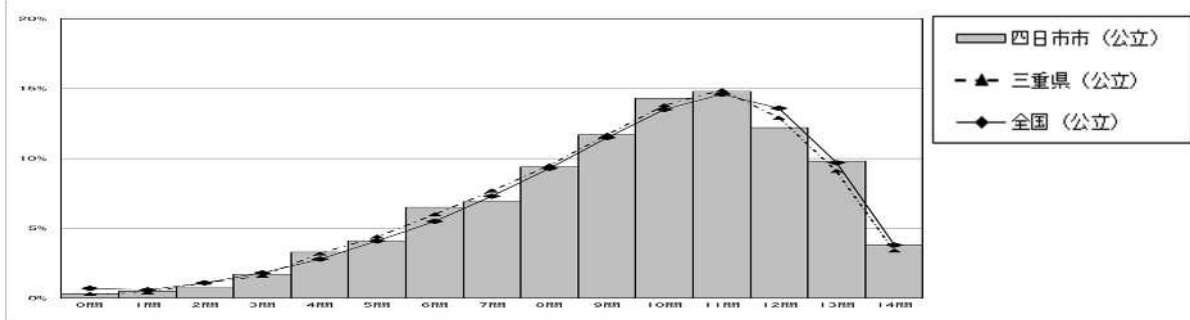
以上の結果から、本市の子どもたちは、小中学校において、論理的思考力や読解力が身に付けてきているということが分かります。

2 教科別 正答数分布グラフ (小学校)

国語

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市 (公立)	2,417	9.4 / 14	67	10.0	2.9
三重県 (公立)	14,011	9.4 / 14	67	10.0	2.8
全国 (公立)	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9

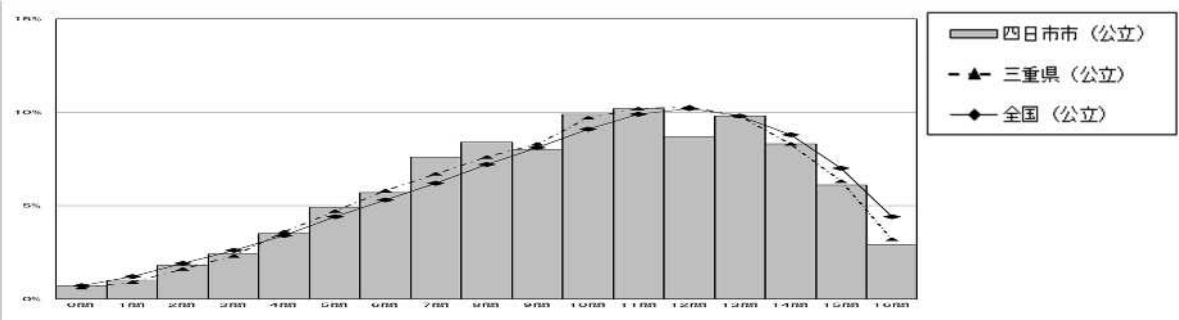
(横軸：正答数 (問) 縦軸：割合 (%))



算数

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市 (公立)	2,419	9.7 / 16	61	10.0	3.7
三重県 (公立)	14,018	9.9 / 16	62	10.0	3.7
全国 (公立)	964,350	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

(横軸：正答数 (問) 縦軸：割合 (%))

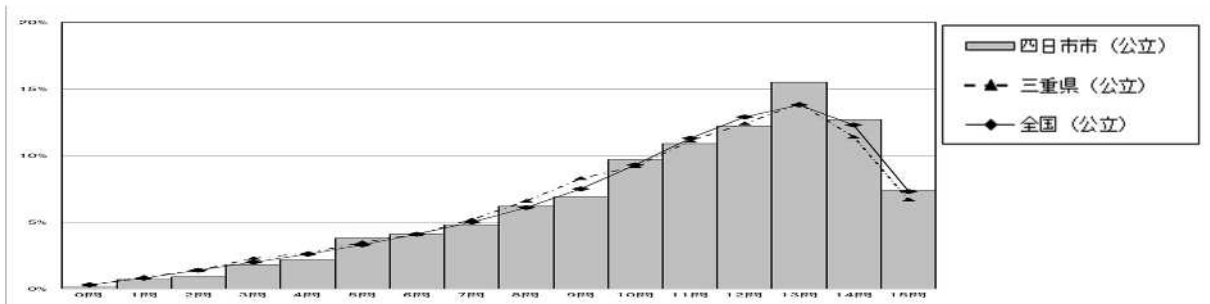


2 教科別 正答数分布グラフ (中学校)

国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市 (公立)	2,213	10.6 / 15	71	11.0	3.3
三重県 (公立)	13,414	10.3 / 15	69	11.0	3.4
全国 (公立)	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4

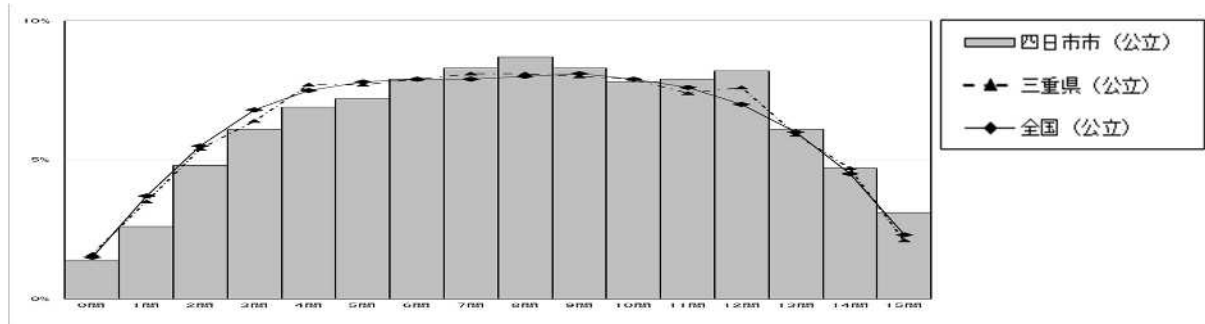
(横軸：正答数 (問) 縦軸：割合 (%))



数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
四日市市(公立)	2,216	8.0 / 15	53	8.0	3.8
三重県(公立)	13,424	7.7 / 15	51	8.0	3.9
全国(公立)	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9

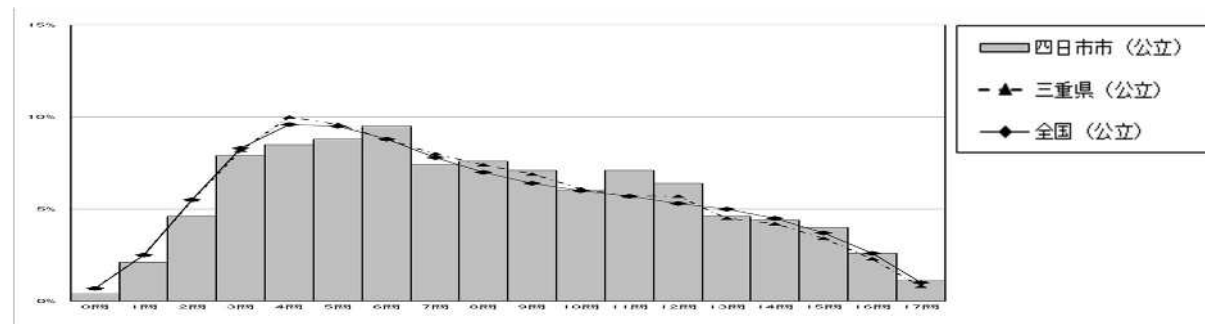
(横軸：正答数(問) 縦軸：割合(%))



英語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
四日市市(公立)	2,216	8.0 / 17	47	8.0	4.1
三重県(公立)	13,387	7.7 / 17	45	7.0	4.1
全国(公立)	893,528	7.7 / 17	45.6	7.0	4.2

(横軸：正答数(問) 縦軸：割合(%))



3 校種・教科別 調査結果概要（小学校）

【 小 学 校 国 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	国語		
	問題数	四日市市	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	71.0	71.2
情報の扱い方に関する事項	2	63.8	63.4
我が国の言語文化に関する事項	—	—	—
話すこと・聞くこと	3	74.3	72.6
書くこと	1	24.5	26.7
読むこと	3	70.4	71.2
全体	14	67	67.2

問題形式	国語		
	問題数	四日市市	全国
選択式	9	73.7	73.6
短答式	2	61.4	62.7
記述式	3	51.6	51.1
全体	14	67	67.2

(2) 本市の解答状況【小学校 国語】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等			問題形式					
				言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	選択式	短答式	記述式
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	▽									
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	○									

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について記載しています。

【 小 学 校 算 数 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	算数		
	問題数	四日市市	全国
数と計算	6	65.6	67.3
図形	4	45.6	48.2
測定	—	—	—
変化と関係	4	69.6	70.9
データの活用	3	64.8	65.5
全体	17	61	62.5

問題形式	算数		
	問題数	四日市市	全国
選択式	5	56.9	57.7
短答式	7	73.8	74.7
記述式	4	43.2	47.3
全体	16	61	62.5

※ 一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

(2) 本市の解答状況【小学校 算数】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等					問題形式			
				数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	選択式	短答式	記述式	
2(3)	切った開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	▽									
2(4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大きさについて分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	▼									
3(2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	▽									
3(3)	$(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	▽									
4(1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる	▽									
4(3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	▽									

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について記載しています。

3 校種・教科別 調査結果概要（中学校）

【 中 学 校 国 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	国語		
	問題数	四日市市	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	2	66.3	67.5
情報の扱い方に関する事項	2	63.7	63.4
我が国の言語文化に関する事項	3	75.3	74.4
話すこと・聞くこと	3	83.3	82.2
書くこと	2	64.1	63.2
読むこと	4	66.3	63.7
全体	16	71	69.8

問題形式	国語		
	問題数	四日市市	全国
選択式	6	73.7	73.1
短答式	5	64.7	65.6
記述式	3	71.2	68.0
全体	14	71	69.8

※ 一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

(2) 本市の解答状況【中学校 国語】

◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等					問題形式			
				言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	選択式	短答式	記述式
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	○									
2四	自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にし、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる	○									
3二	漢字を書く（おし量って）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	▽									
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	◎									

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について記載しています。

【 中 学 校 数 学 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	数学		
	問題数	四日市市	全国
数と式	5	65.3	63.0
図形	3	34.2	33.2
関数	4	53.7	51.2
データの活用	3	51.5	48.5
全体	15	53	51.0

問題形式	数学		
	問題数	四日市市	全国
選択式	4	46.1	45.3
短答式	6	64.8	62.6
記述式	5	45.0	41.6
全体	15	53	51.0

(2) 本市の解答状況【中学校 数学】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等				問題形式		
				数と式	図形	関数	データの活用	選択式	短答式	記述式
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	○							
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	○							
6(2)	はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	○							
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる	○							
7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	○							
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる	○							
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	○							
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	○							

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について記載しています。

【 中 学 校 英 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	英語			問題形式	英語		
	設問数	四日市市	全国		設問数	四日市市	全国
聞くこと	6	58.8	58.4	選択式	12	56.3	54.8
読むこと	6	53.7	51.2	短答式	3	32.1	30.1
書くこと	5	25.2	23.4	記述式	2	15.0	13.5
全体	17	47	45.6	全体	17	47	45.6

※ 一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

(2) 本市の解答状況【中学校 英語】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等					問題形式			
				聞くこと	読むこと	取話すこと「やり取り」	表すこと「発話」	書くこと	選択式	短答式	記述式	
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○									
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	▽									
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	○									
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の動きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる	◎									
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	○									
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる	◎									
8 (1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる	▼									
9 (1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる	○									
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる	○									

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について記載しています。

4 今後の授業改善のポイントについて

国語の問題

資料を関係づけて、条件に合わせて文章を書く。

設問の趣旨

情報と情報との関係を捉えたり、グラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができること。



川村さんの学校の田んぼで取り組んだ米作りについての文章を書く場面です。
自分の考えが伝わるように、記録していたカードから必要なカードを選んだり、カードの情報とグラフを用いて、学校の米作りの問題点とその解決方法について文章を書いたりする問題です。

設問の正答率
国：26.7
市：24.5



⑭要約
(抽象と具体)

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、川村さんの学校でもよくやるようになった。その中でも、いっしょの問題がありました。学校の田んぼには、お米を育てるのに必要な水が足りなくなりました。

5月からは学校の田んぼに水をためるため、6月には水をためる。7月には、お米を育てるのに必要な水をためる。8月には、お米を育てるのに必要な水をためる。9月には、お米を育てるのに必要な水をためる。10月には、お米を育てるのに必要な水をためる。11月には、お米を育てるのに必要な水をためる。12月には、お米を育てるのに必要な水をためる。

このようにして取り組み、今年の米作りはうまくいきました。

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、川村さんの学校でもよくやるようになった。その中でも、いっしょの問題がありました。学校の田んぼには、お米を育てるのに必要な水が足りなくなりました。

5月からは学校の田んぼに水をためるため、6月には水をためる。7月には、お米を育てるのに必要な水をためる。8月には、お米を育てるのに必要な水をためる。9月には、お米を育てるのに必要な水をためる。10月には、お米を育てるのに必要な水をためる。11月には、お米を育てるのに必要な水をためる。12月には、お米を育てるのに必要な水をためる。

このようにして取り組み、今年の米作りはうまくいきました。

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、川村さんの学校でもよくやるようになった。その中でも、いっしょの問題がありました。学校の田んぼには、お米を育てるのに必要な水が足りなくなりました。

5月からは学校の田んぼに水をためるため、6月には水をためる。7月には、お米を育てるのに必要な水をためる。8月には、お米を育てるのに必要な水をためる。9月には、お米を育てるのに必要な水をためる。10月には、お米を育てるのに必要な水をためる。11月には、お米を育てるのに必要な水をためる。12月には、お米を育てるのに必要な水をためる。

このようにして取り組み、今年の米作りはうまくいきました。

学校の米作りの問題点とその解決方法について、短い文章でまとめてみましょう。



【思考スキル】
関係づける



【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、川村さんの学校でもよくやるようになった。その中でも、いっしょの問題がありました。学校の田んぼには、お米を育てるのに必要な水が足りなくなりました。

5月からは学校の田んぼに水をためるため、6月には水をためる。7月には、お米を育てるのに必要な水をためる。8月には、お米を育てるのに必要な水をためる。9月には、お米を育てるのに必要な水をためる。10月には、お米を育てるのに必要な水をためる。11月には、お米を育てるのに必要な水をためる。12月には、お米を育てるのに必要な水をためる。

このようにして取り組み、今年の米作りはうまくいきました。

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、川村さんの学校でもよくやるようになった。その中でも、いっしょの問題がありました。学校の田んぼには、お米を育てるのに必要な水が足りなくなりました。

5月からは学校の田んぼに水をためるため、6月には水をためる。7月には、お米を育てるのに必要な水をためる。8月には、お米を育てるのに必要な水をためる。9月には、お米を育てるのに必要な水をためる。10月には、お米を育てるのに必要な水をためる。11月には、お米を育てるのに必要な水をためる。12月には、お米を育てるのに必要な水をためる。

このようにして取り組み、今年の米作りはうまくいきました。

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、川村さんの学校でもよくやるようになった。その中でも、いっしょの問題がありました。学校の田んぼには、お米を育てるのに必要な水が足りなくなりました。

5月からは学校の田んぼに水をためるため、6月には水をためる。7月には、お米を育てるのに必要な水をためる。8月には、お米を育てるのに必要な水をためる。9月には、お米を育てるのに必要な水をためる。10月には、お米を育てるのに必要な水をためる。11月には、お米を育てるのに必要な水をためる。12月には、お米を育てるのに必要な水をためる。

このようにして取り組み、今年の米作りはうまくいきました。

もしも、授業で行ったら…

【カード①】

5月24日

【カード②】

5月30日

【カード③】

6月21日

【カード④】

7月20日

【カード⑤】

7月21日

関係づける

どの資料を使えば文章にまとめられるかな。まずは5枚のカードとグラフの内容を確認してみよう。

カード④には、農家の石山さんのお話が載っているね。これはグラフと関係づけて、書いてあることを読み取ったほうが良さそうだね。

いくつかの資料の中から、必要な情報を読み取ったり、目的に応じて整理したりすることで、資料どうしを関係づけて考えることが大切だね。

考えたことをもとにして、米作りの問題点とその解決方法について文章でまとめてみましょう。



授業のPOINT

- 資料から読み取れる情報を整理すること、また資料どうしの関係性についても考えさせる。
- 整理した情報をもとに、問題点と解決方法について、条件に合わせて文章を書かせる。



ワークシート
二次元コード



算数の問題

場面の様子を捉え、式の意味について説明する

設問の趣旨

問題場面を理解して、式の意味を読み取ったり、求め方を表現したりすること。

3

辞典やファイルを、教室の後ろに並べようとしています。

(1) わかなさんの学級では、国語辞典と漢字辞典を1人1冊ずつ使えるように、ロッカーの上に並べることにしました。そこで、並べる前に、国語辞典と漢字辞典を全部並べた長さか、どのくらいになるかを考えています。国語辞典1冊の厚さは5cm、漢字辞典1冊の厚さは4cm、学級の人数は28人です。

国語辞典と漢字辞典に分けて並べたと考えてます。



1人分ずつ並べたと考えてることもできます。



わかなさんとあきらさんは、国語辞典と漢字辞典を全部並べた長さか、何cmになるかを計算で求めようと考え、それぞれ自分の並べ方をもとにして、次のような式を書きました。

【わかなさんの式】
 $5 \times 28 + 4 \times 28$

【あきらさんの式】
 $(5 + 4) \times 28$

【わかなさんの式】の「 5×28 」と、【あきらさんの式】の「 $5 + 4$ 」は、何を表していますか。

下のアからエまでの中から1つずつ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 国語辞典28冊を並べた長さ
- イ 漢字辞典28冊を並べた長さ
- ウ 国語辞典1冊の厚さと漢字辞典1冊の厚さを合わせた長さ
- エ 国語辞典28冊と漢字辞典28冊を並べた長さ

教室の後ろに辞典を並べたり、棚にファイルを入れたりする日常生活の場面において、辞典やファイルを並べた長さを求める問題だね。



⑫考えと理由
 (因果関係)

もしも授業で行ったら・・・

私は、 $5 \times 28 + 4 \times 28$ と
 えて、252cmだと思ひます。



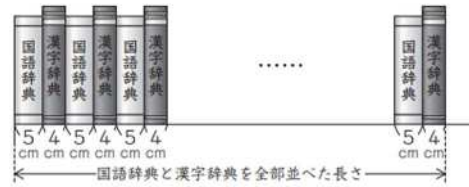
私は、 $(5 + 4) \times 28$ と考
 えて、252cmだと思ひます。



国語辞典と漢字辞典に分けて並べたと考えてます。



1人分ずつ並べたと考えてることもできます。



2人とも答えは同じですが、
 式が違いますね。どのように
 考えたのでしょうか。

【思考スキル】

関連づける



わかなさんは、国語辞典だけを28冊
 と漢字辞典だけを28冊並べて、考
 えたんだと思ひます。



あきらさんは、1人分の国語辞典と
 漢字辞典が厚さ9cmだから、28人
 分あると考えたんだと思ひます。



POINT になる問い返し

○ $(5 + 4)$ は、何を表しているのですか？
 ○ 5×28 と 4×28 は何を表しているの
 ですか？



○ 自分の考え方を相手に伝えるように順序立
 てて書いてみましょう。
 ○ 自分の考え方を友達に伝えてみましょう。

授業のPOINT

- 様々な式を出し合うだけでなく、**どのように考えたのか**ということや**式の意味**を問い返し、考えさせること。
- 式から場面、場面から式など、自分の考えを**筋道立てて表現する時間**を設定すること。



ワークシート
 二次元コード



設問の趣旨

具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。

本問は、調べたり考えたりしたことをレポートにまとめて書く場面を想定した問題だね。

レポートでは、「文章の構成や論理の展開」について意識したり、本文と見出しの関係が「具体と抽象の関係」になっているかを意識したりすることが大切になるよ。



山田さんは、「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章を内容のまとまりで二つに分け、後半のまとまりには分けた内容と合う見出しを付けることにしました。分ける箇所として最も適切なものを、(ア) から (オ) までの中から一つ選びなさい。また、後半のまとまりに付ける見出しを考えて書きなさい。



もしも授業で行ったら・・・

【課題】

「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章を内容のまとまりで二つに分け、後半のまとまりには分けた内容と合う見出しを付ける。

分ける部分は、どこに着目するといいいかな・・・

読解力
①文章構成 (論理の展開)

前半は、「『判じ絵』とはどんなものか」が具体的に書かれていて、後半は「『判じ絵』の起源」などが具体的に書かれた部分になっているな。

授業の POINT

○レポート等では、読み手の立場に立って、文章の構成を考えることが必要。

○レポート等では、見出しと内容が抽象と具体の関係になっているかを意識して読んだり、書いたりすることが大切。

○文章の中の具体的な言葉を抽象化した表現にすることで、見出しをつくることができる。

「判じ絵」について

1. はじめに
学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることにした。

2. 調査方法
学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3. 調査結果

■「判じ絵」とは何か
「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。
【ア】ただし、【図1】のように、描かれているもの【図1】ザルと意味しているものが異なるため、解読する際には、「判じ絵」のこと、つまり、知っていることやもともと「おしぼって考える」ことが必要になる。
【イ】調べてみると、なぜかおぼろげなイメージのものがある。
【ウ】また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」が考えられていることが分かった。
【エ】そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。
【オ】さらに明治時代に移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。

■「判じ絵」の解読の面白さ
「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。
【図1】は、鈴の絵が目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。
【図2】スズメ

分ける部分は分かるけど、見出しはどうしたらいいかな・・・

読解力
④文章構成 (具体と抽象)

(ウ)より後の部分では、「『判じ絵』がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのか」が具体的に書かれているね。「平安時代」「江戸時代」「明治時代」と、それぞれが書かれているから、「歴史」という表現を使って、「『判じ絵』の歴史」という見出しはどうか。

○まとまりの中の具体的な叙述の中から、見出しにつながるキーワードは何か考えてみましょう。その言葉をまとめると、どういう言葉で表現することができるかを考えると見出しができそうですね。

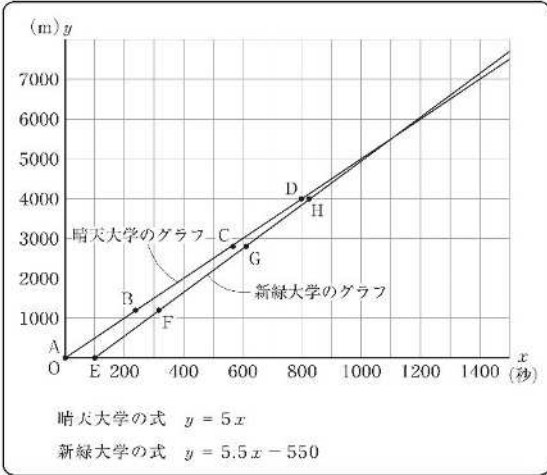
ワークシート
二次元コード



設問の趣旨

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。

コンピュータを使って表された直線のグラフと式



8



④要旨
(情報の着目)

(3) 新緑大学が晴天大学に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるのかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いておよそ何mの地点になるのかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何mかを求める必要はありません。

ア 晴天大学のグラフと新緑大学のグラフ

イ 晴天大学の式と新緑大学の式



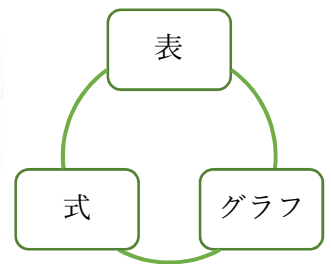
スタート地点からおよそ何mの地点になるのでしょうか。「グラフ」と「式」を用いて、それぞれ求める方法を説明してみましょう。

もしも、授業で行ったら…。

「グラフ」を用いて求める	「式」を用いて求める
数量の関係に着目する	
<p>グラフの交点が追いつく地点を表しているね。</p>	<p>2つの式を連立方程式として考えて、これを解けばいいね。</p>
数学的に解釈し、構想を立てる	
<p>その時のyの値を求めれば、スタート地点からの距離が分かるよ。</p>	<p>その連立方程式を解いたとき、yの値がスタート地点からの距離となるね。</p>

【思考スキル】

関連付ける



筋道立てて説明する



授業のPOINT

- 問題解決の方法・手順を説明するためには、3つの場面を設定すること
- 式、表、グラフの何に**着目**すればよいのかを見出す場面
 - 数学的に解釈し、**構想**を立てる場面
 - 筋道立てて説明**する場面



関数の学習では、「式」「表」「グラフ」を相互に関連付けて考えることで、理解が深まり、何に着目すればよいのかに気付くことができます。

さらには、自分の考えをもとに、他者と協働的に問題を解決したり、自ら振り返ったりして、求める方法を記述したり、伝え合ったりすることが大切です。

※「授業のPOINT」を指標とし、生徒がどのように考えているのか、また、どこでつまづいているのかを見取することで、個別の支援方法を考え、学習の改善へとつなげていきます。

ワークシート
二次元コード



設問の趣旨

社会的な話題について、短い文章の要点を捉えて、それに対する自分の考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



(1) ブラウン先生が最も伝えたいことを、下の1から4までのの中から1つ選びなさい。

- 1 We see many kinds of robots around us.
- 2 I saw a robot and it was working as a guide.
- 3 People will have fun if they live with robot pets.
- 4 Robots can change many people's lives for the better.

設問の正答率
国: 56.1
市: 50.1

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

設問の正答率
国: 19.5
市: 21.2

この問題では、文章全体を読み通した上で、複数の情報から、書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉え、自分が考えたことや感じたことを、その理由を交えて書くことが求められるよ。

もしも授業で行ったら…

- ・ おおまかな内容を捉えるために読む
どのようなことが書かれているか、つかもう。
- ・ 大切なところを捉えるために読む
書き手が一番伝えたいと思う文に印を付けよう。

・ 書き手の意見に対して、自分の考えとその理由を整理して書く

自分の意見とその根拠を読み手に伝えよう

何から書き始めたらいいのかな。ロボットについて書けばいいのかな。

書き手の意見に賛成か反対かを述べて、その理由を具体的に伝える。

【思考スキル】

理由づける

I agree. / I don't agree. を使って賛否を伝えて、その理由を具体的に書きます。

どこが最も言いたいところかな…

まとめの前によく使われる語句に注目する。

③要旨を捉える

ここだ!

授業の POINT

- まとまった文章を読む時は一文ずつではなく、全体を読んで大切な部分を捉えさせる読み方を指導すること。
- 生徒が自分の考えを述べ、その理由を加えて、一貫性のある文章を書く場面を設定すること。

ワークシート
二次元コード



5 児童生徒質問紙の結果と各学校の取り組みについて

【グラフの見方】

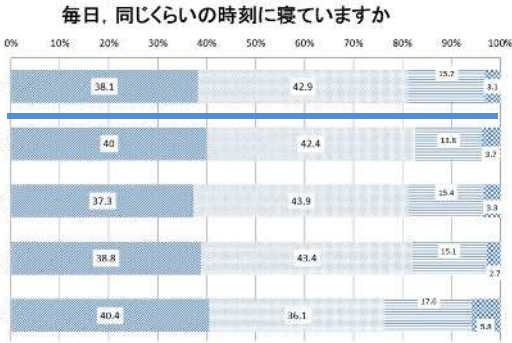
(例) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

質問紙の質問番号

【小学校2】←

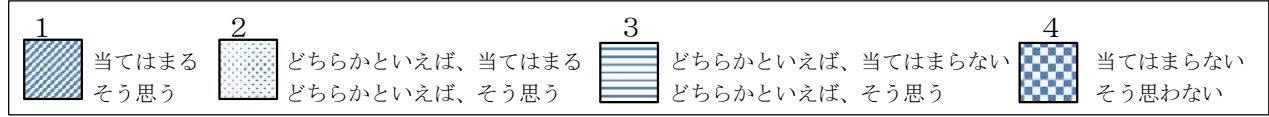
令和5年度
全国の回答状況

本市の年度別の
回答状況



左から
1・2・3・4
の回答を表す。

- ※ 数値の合計は100にならない場合がある。
- ※ 回答方法の記載がないグラフの表示は以下のとおりである。
- ※ 肯定回答は1を選択、肯定的回答は1・2を選択した場合を表す。

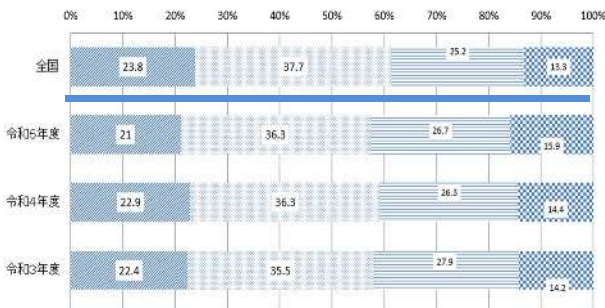


(1) 教科の意識に関する質問

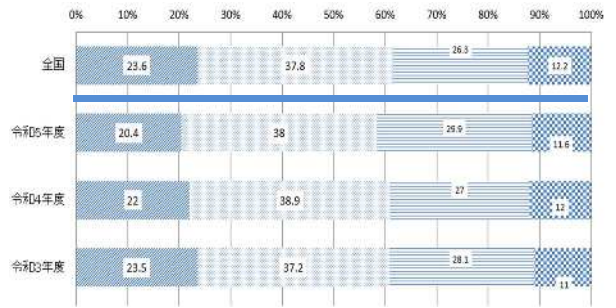
【小中:国語】

○ 国語の勉強は好きですか。

【小学校43】

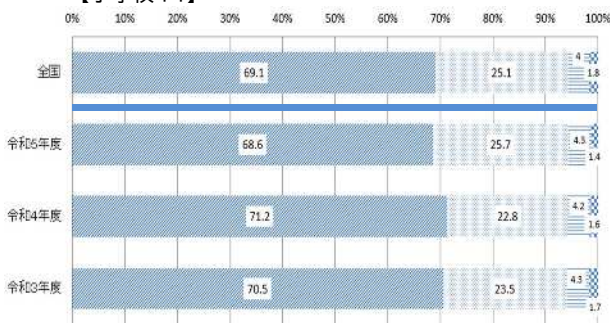


【中学校47】

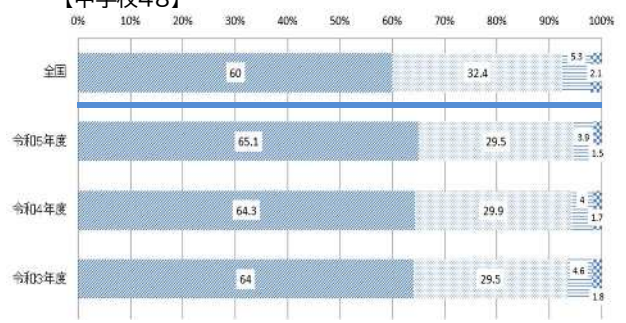


○ 国語の勉強は大切だと思いますか。

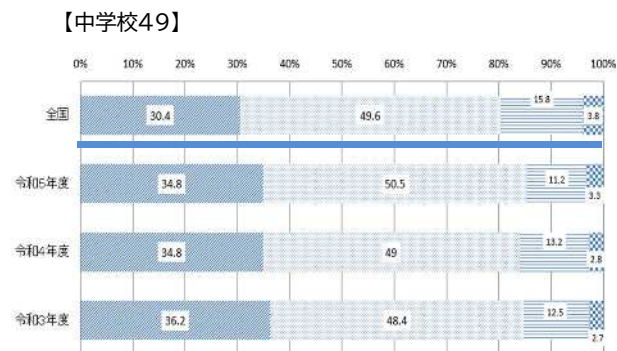
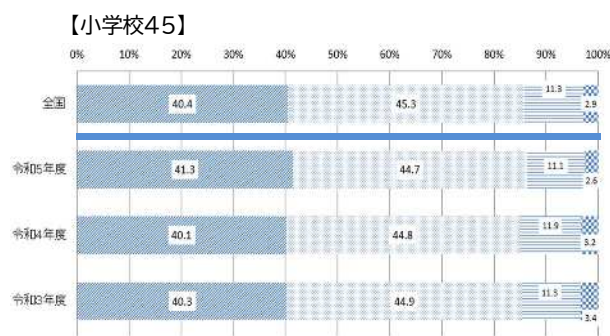
【小学校44】



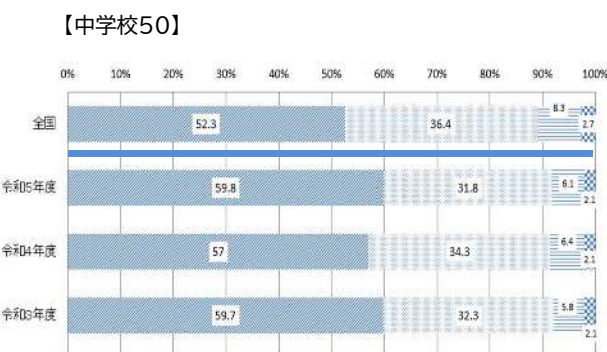
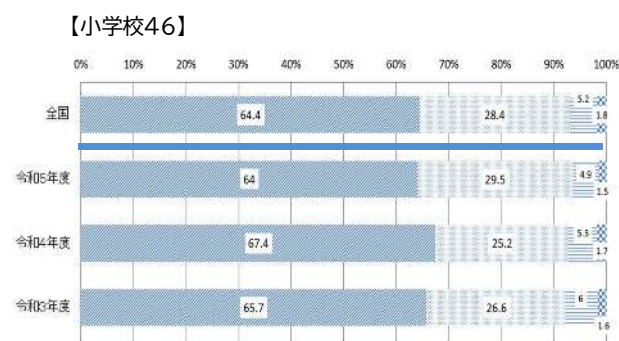
【中学校48】



○ 国語の授業の内容はよく分かりますか。



○ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

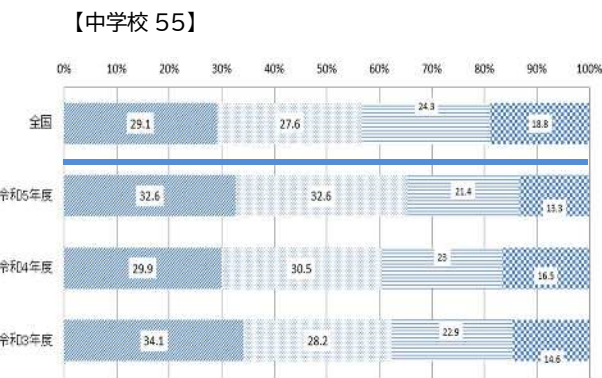
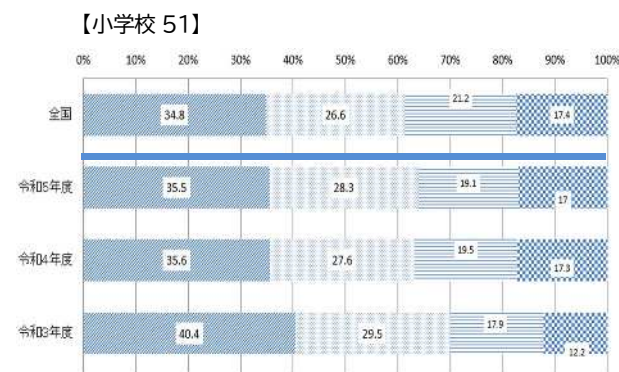


四日市市の子どもたちは、全国に比べて、国語の大切さや将来必要な教科だと感じているんだね。国語の授業の内容もわかりやすいと答えている子どもの割合も増えてきているね！

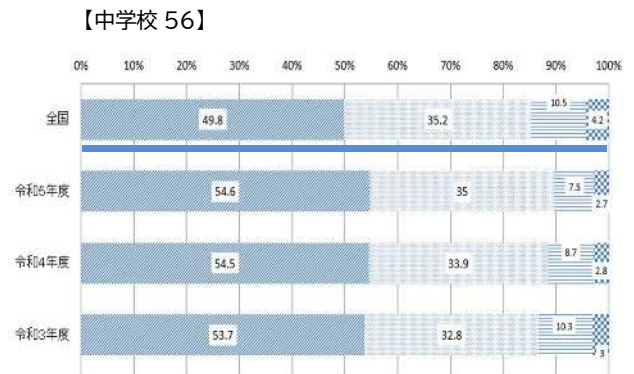
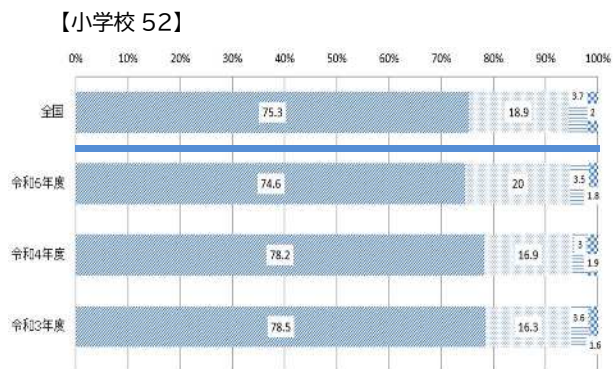
小学生も中学生も国語の必要性は感じているんだけど、「国語の授業が好き」という割合が全国と比べると少ないんだね。

【小:算数 中:数学】

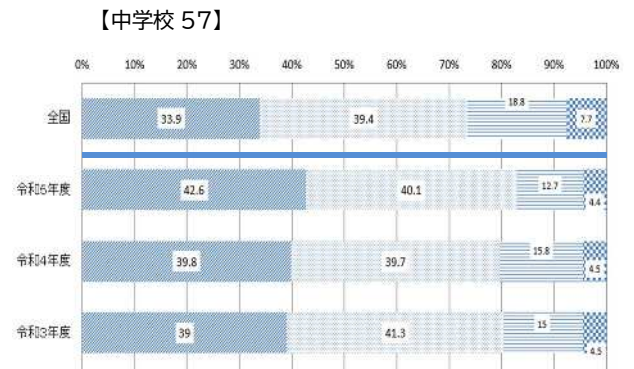
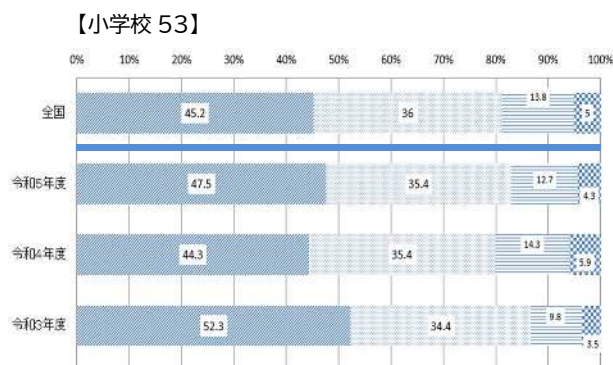
○ 算数・数学の勉強は好きですか。



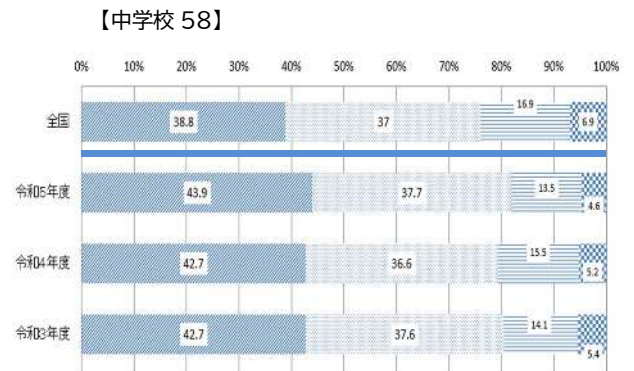
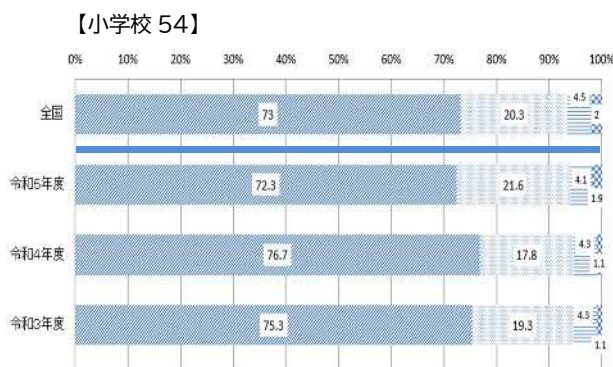
○ 算数・数学の勉強は大切だと思いますか。



○ 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。



○ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

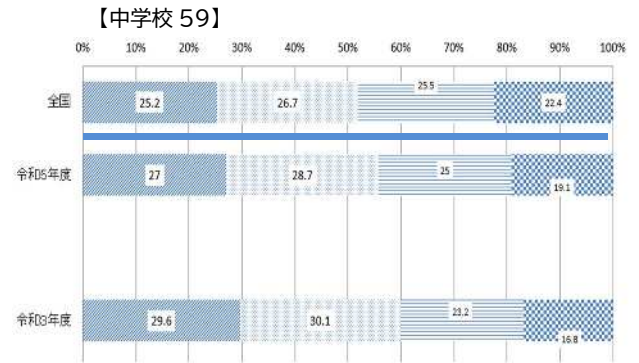
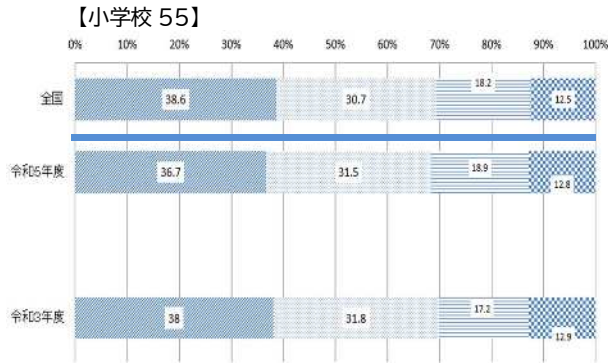


四日市市の子どもたちは、全国に比べて、算数の大切さや将来必要な教科だと感じているんだね。算数の授業の内容もわかりやすいと答えている子どもの割合も増えてきているね！

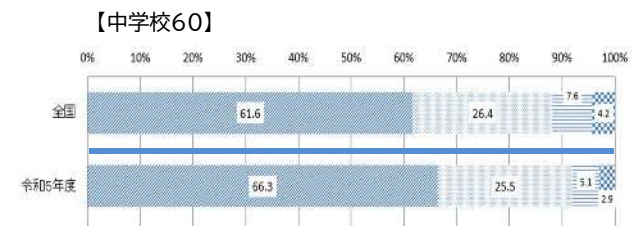
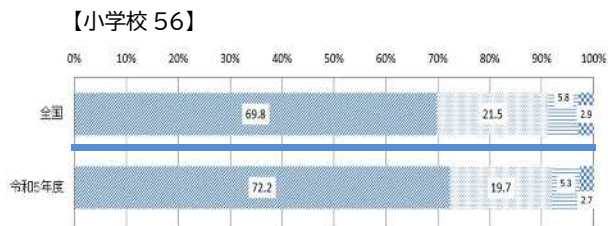
小学生も中学生も「算数の授業が好き」という割合が全国と比べると高いけど、この項目の割合はどちらも65%ぐらいで、低い値だね。

【小中:英語】

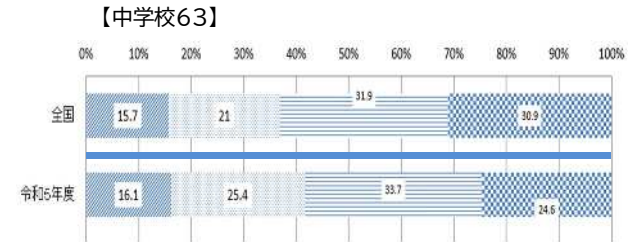
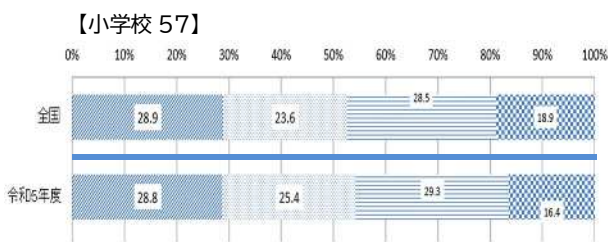
○ 英語の勉強は好きですか。



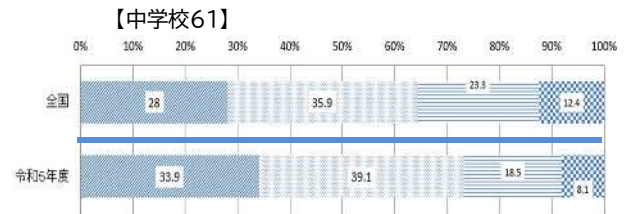
○ 英語の勉強は大切だと思いますか。



○ 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。



○ 英語の授業の内容はよく分かりますか。



四日市市の子どもたちは、全国に比べて、英語の大切さや将来必要な教科だと感じているんだね。英語を積極的に使うような生活をしたり、職業に就いたりしたいと思っている割合が、全国と比べると高いことが分かるね！

小学生に「英語の授業が好き」という割合が全国よりも低いね。中学生は「英語の授業が好き」という割合は全国よりも高いけど、好きの割合は55%で小学生のときよりも減っているね。

【教科の意識に関する質問の全国との比較】

	授業が好き		勉強の大切さ		将来、役に立つ	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
国語	-4.3	-3.0	+0.1	+2.2	+0.7	+2.9
算数 数学	+2.4	+8.5	+0.2	+4.6	+0.6	+5.8
英語	-1.1	+3.6	+0.6	+3.8		

※全国の割合と比較したもの

<考察>

- 学習指導要領では、児童生徒が知識や技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を養ったり、新たな学びに向かったりするだけではなく、学びを人生や社会に生かそうとする力を高めていくことが大切だと示されています。そのためにも、各教科の勉強の大切さを実感し、日常生活や実生活に生かそうとする態度を育成していくことが大切だと考えます。
- 小学校の国語・算数・英語の授業においては、教科の本質的なおもしろさに迫る授業改善を推進するとともに、ICT機器等を効果的に活用し、「わかる」と実感できる授業改善をしていく必要があると考えています。

子どもたちが授業が好きになるための各学校の取り組み

「わかった」と実感させるための取り組み

- ・授業で身につけた力を使って、様々な問題を解決する時間を確保する。
- ・具体物を操作させたり、ICTを効果的に活用したりする。
- ・国語科では、言語活動でパンフレット・リーフレット等を作成して終わるのではなく、作成したものの表現の仕方について推敲する指導を充実させていく。
- ・コミュニケーションを大切に、会話を続けることを意識させ、相手に伝えることの楽しさを実感させる。

日常生活との結びつきを実感させるための取り組み

- ・色々なシチュエーションにおける英文を書く活動を、授業内で取り組ませるようにしていく。
- ・データの活用など、子どもたち自身が作成したデータや実際のデータを用いて、複数のデータから読み取ることの楽しさを実感させる。

など

(2) 「学習の基盤となる力」に関する質問

◇肯定的回答(上記1と2の合計)が、全国の結果を上回っている質問

<小中とも>

- ・ 5年生まで(1・2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。
- ・ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

<中のみ>

- ・ 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
- ・ 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。
- ・ 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。
- ・ 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。
- ・ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

◆肯定的回答(上記1と2の合計)が、全国の結果を下回っている質問

<小中とも>

- ・ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

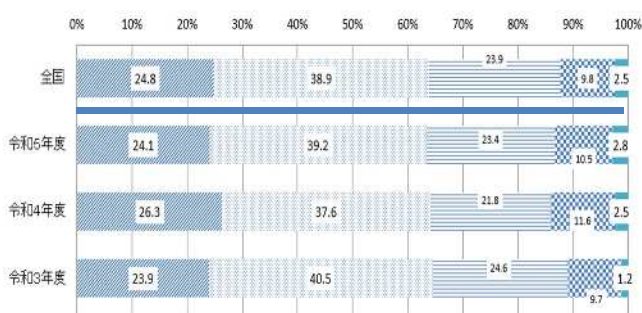
<「言語能力」に関わって>

伝える

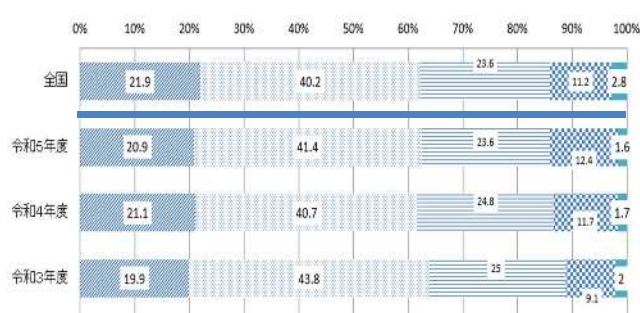


- 5年生までに受けた授業で(1、2年生のときに受けた授業で)、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

【小学校 32】



【中学校 36】



話す・聞く

- 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

【小学校 36】



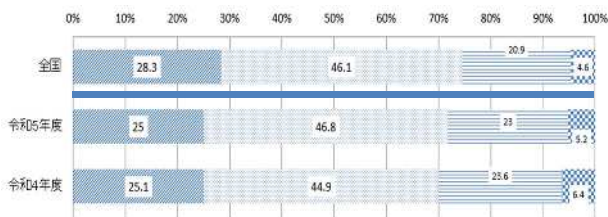
【中学校 40】



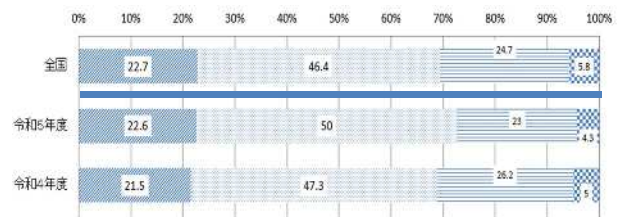
書く

- 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

【小学校 34】



【中学校 38】



言語能力

四日市市の子どもたちの実態

四日市市の子どもたちの実態

強み

・仲間と意見を伝え合ったり、仲間の思いや考えについて考えることを楽しむことができる。

弱み

・自分の考えを述べるだけで留まってしまい、自分と仲間の意見を比べることが苦手である。
・発表する場面において、相手により伝わるように、資料や文章、話の組み立て方を考えることが苦手である。

新教育プログラム柱1

読む・話す・伝えるプログラム



- 「言語能力」については、今後も、新教育プログラム柱1で取り組んでいる「読解力向上の『20の観点』」等を活用するとともに、自分の考えがうまく伝わるために、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表できるよう、発達段階に応じた言語活動を充実させて、児童生徒の資質・能力を育てていきます。

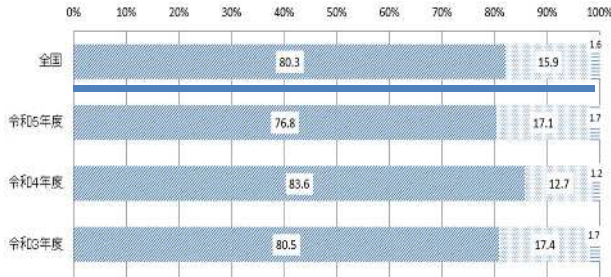
<「情報活用能力」に関わって>

○ 今回の算数(数学)の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように回答しましたか。

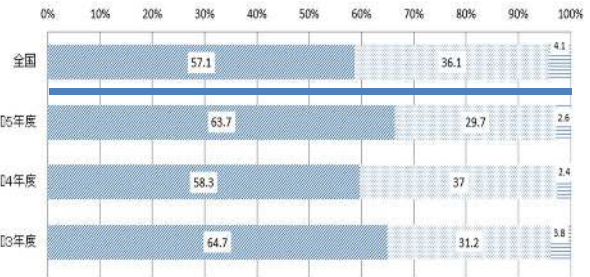
※左から、

- 1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- 2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった。
- 3 書く問題は全く解答しなかった。

【小学校62】

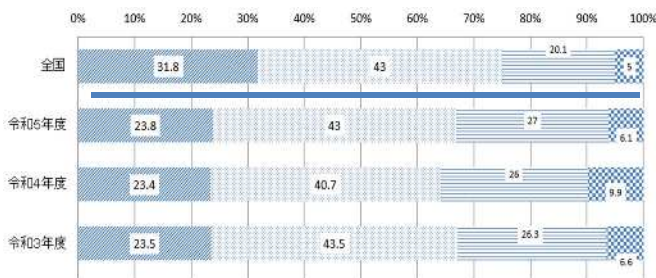


【中学校75】

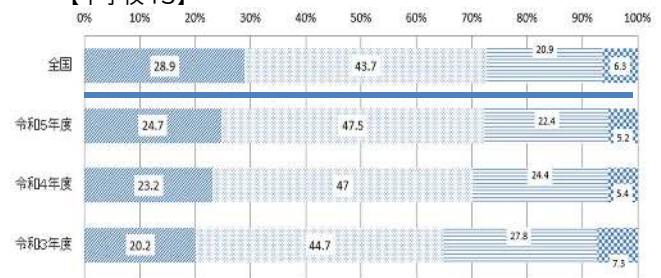


○ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

【小学校39】



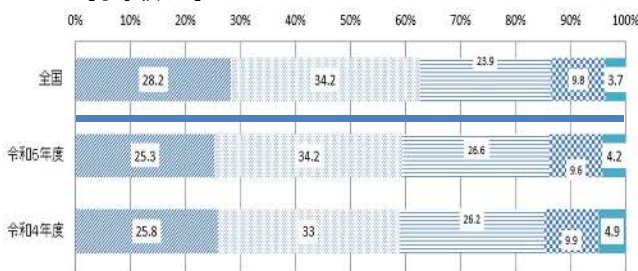
【中学校43】



○ 5年生までに受けた授業で(1、2年生のときに受けた授業で)、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。(左から、ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上、月1回以上、月1回未満)



【小学校29】



【中学校33】



自分の考えを言葉で伝えるだけでなく、図や式、データなどを使って、相手に伝わるように書く活動が必要になってくるだね。



四日市市の子どもたちの実態

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・算数（数学）の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書くことができる。 ・PC、タブレットなどの ICT 機器を活用した授業を週に 3 回以上行っている割合が小学校では 59.5%、中学校では 78.1%の割合で行っており、子どもたちの ICT スキルが発達段階に応じて、高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間等、自分で課題を決め、その課題を解決するために情報を集めたり、調べたりすることが苦手である。

新教育プログラム柱2

論理的な思考力で筋道くっきりプログラム

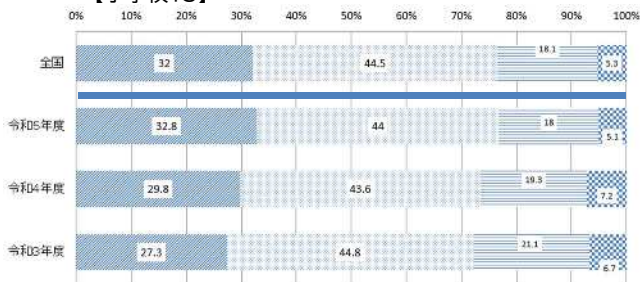


- 「情報活用能力」については、各教科の学習の中で育んでいく必要があります。新教育プログラム柱2において、思考スキルを意識した授業づくりや各教科の特質に応じて情報を活用する場面を設定し、ICT機器の活用能力とともに論理的思考力を高める取り組みを進めていきます。

<「問題発見・解決能力」に関わって>

- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

【小学校13】

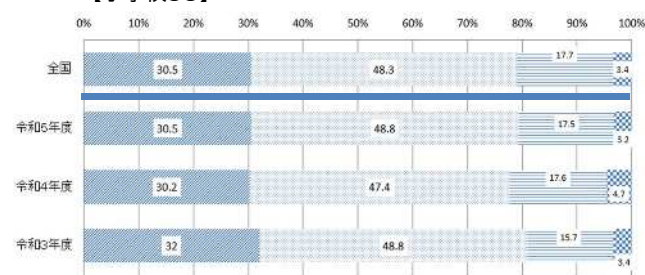


【中学校13】

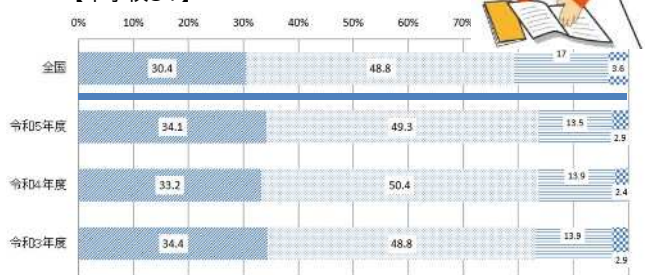


- 5年生まで(1・2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

【小学校33】

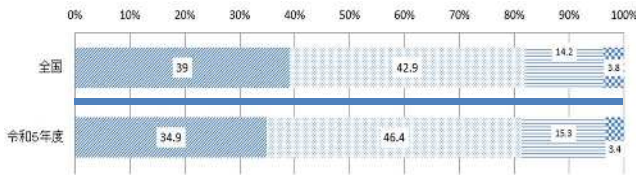


【中学校37】

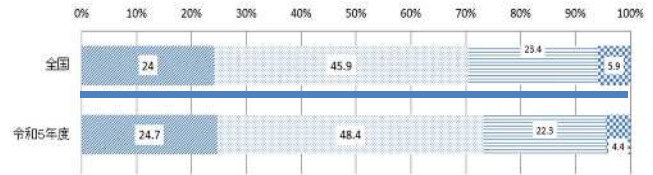


○ 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。

【小学校38】

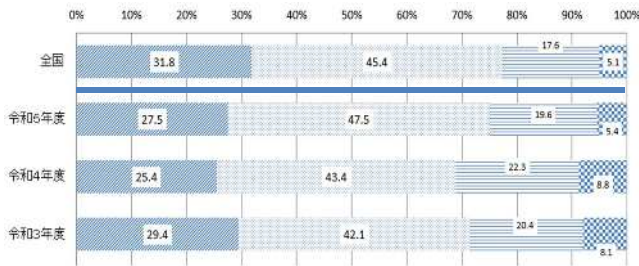


【中学校42】

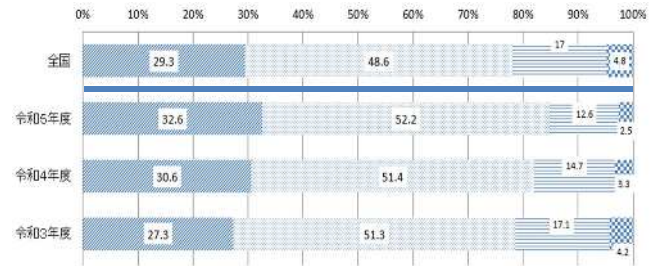


○ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

【小学校40】



【中学校44】



問題発見・解決能力

四日市市の子どもたちの実態

四日市市の子どもたちの実態

強み

- ・ 自らの課題を自分の力で考え、解決したいと思っている子どもの割合が多い。
- ・ 中学生は、自分の意見だけでなく、仲間の意見も取り入れながら、学校生活をよりよくしている姿が見られる。

弱み

- ・ 授業の中で学んだ知識・技能を他の場面で活用しているという意識が少ない。
- ・ 小学生は、互いの意見のよさを活かして解決方法を決めることが苦手である。

「四日市モデル」

(問題解決能力向上のための5つのプロセス)



- 「問題発見・解決能力」については、これまでも「四日市モデル」(問題解決能力向上のための5つのプロセス)等を意識して、各教科等の授業の中で大切に育てています。小中学校ともに、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」の質問では全国平均を上回っており、今後も継続して授業改善を進めていきます。

(3) 「キャリア教育」に関する質問

◇肯定的回答(上記1と2の合計)が、全国の結果を上回っている質問

<小中とも>

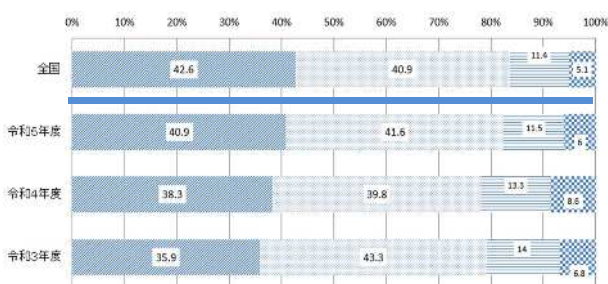
- ・ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
- ・ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

<中のみ>

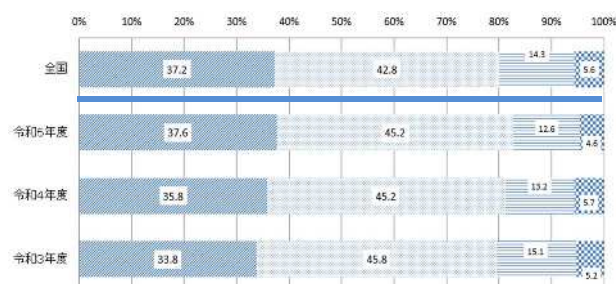
- ・ 自分には、よいところがあると思いますか。
- ・ 将来の夢や目標を持っていますか。

○ 自分には、よいところがあると思いますか。

【小学校4】

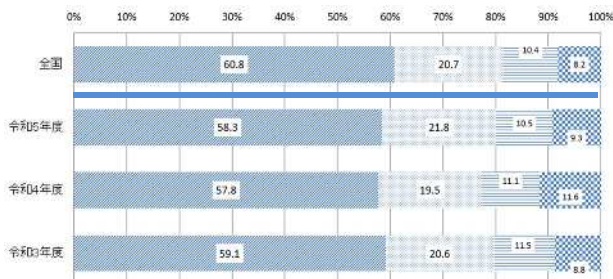


【中学校4】

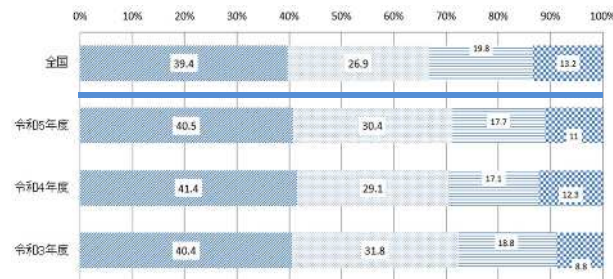


○ 将来の夢や目標を持っていますか。

【小学校7】

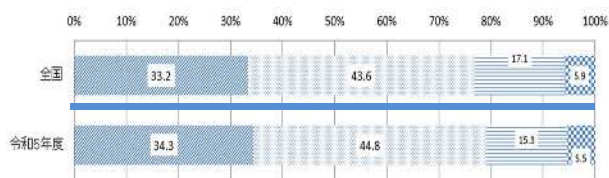


【中学校7】

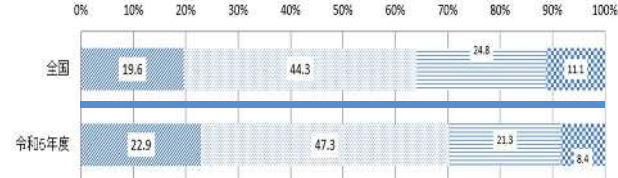


○ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

【小学校26】



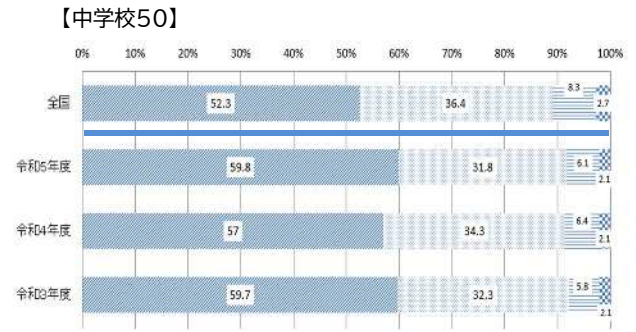
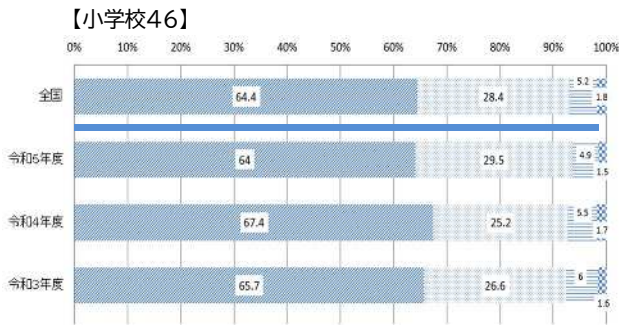
【中学校30】



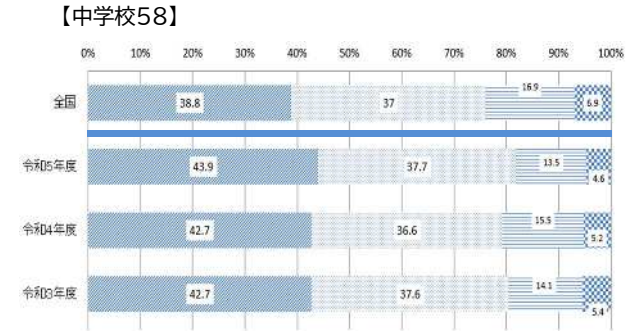
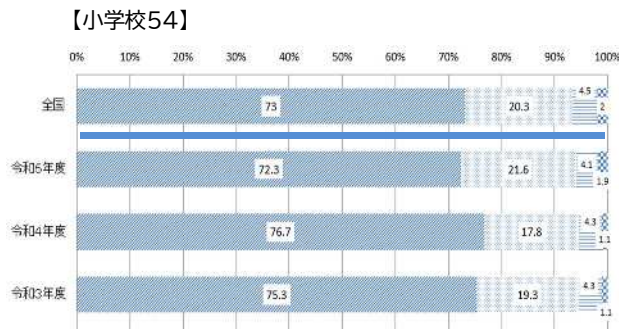
地域や社会のために何かしたいと思う割合が全国よりも高いんだね。

将来の夢や目標を持っている子どもたちの割合がもっと高くなってくるといいね。

○ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



○ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



学校の授業で学んでいることは将来役に立つことを子どもたちも実感しているんだね。

キャリア教育

四日市市の子どもたちの実態

四日市市の子どもたちの実態

強み

- ・自分たちの住んでいる地域のことを大切に思う気持ちが高い。
- ・授業で学習したことが、将来の役に立つと理解している。

弱み

- ・自分のよさを実感している割合が全国と比べると低い。
- ・小学生の将来の夢や目標ももっている割合が全国と比べると低い。

新教育プログラム柱5

夢と志！よっかいち・輝く自分づくりプログラム



- 「キャリア教育」については、今後も、新教育プログラム柱5で取り組んでいる四日市版キャリア・パスポートの効果的な活用方法を含め、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を推進し、子どもたちが社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現し学び続けるために、「何のために学ぶのか」という目的意識の向上を目指します。

(4) 学校生活等の意識に関する質問

◇肯定的回答が、全国の結果を上回っている質問

<小中とも>

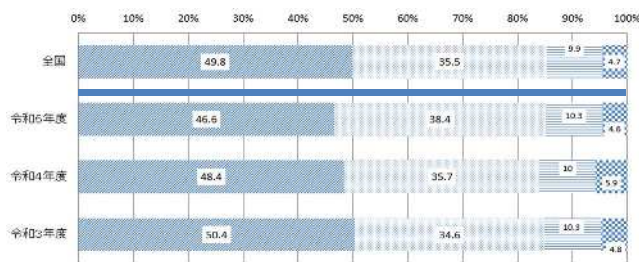
- ・ 人が困っているときは、進んで助けていますか。
- ・ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- ・ 友達関係に満足していますか。

<中のみ>

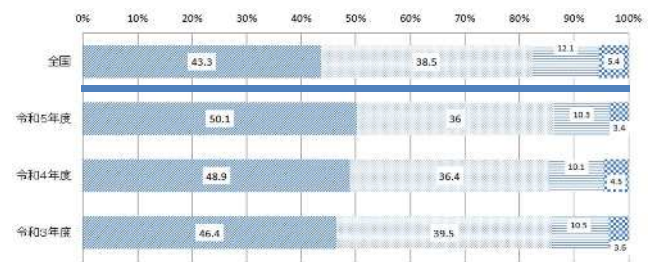
- ・ 学校に行くのは楽しいと思いますか。

○ 学校に行くのは楽しいと思いますか。

【小学校12】

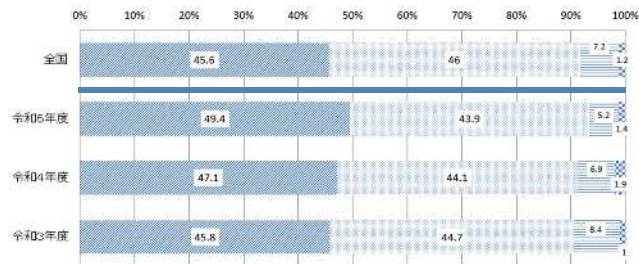


【中学校12】

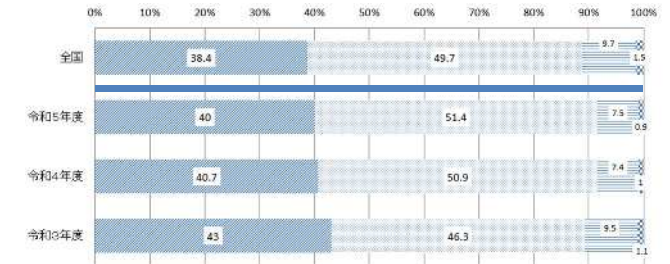


○ 人が困っているときは、進んで助けていますか。

【小学校8】

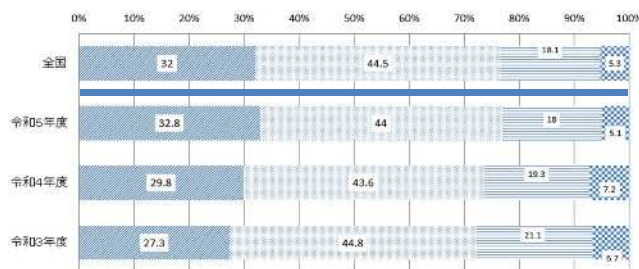


【中学校8】

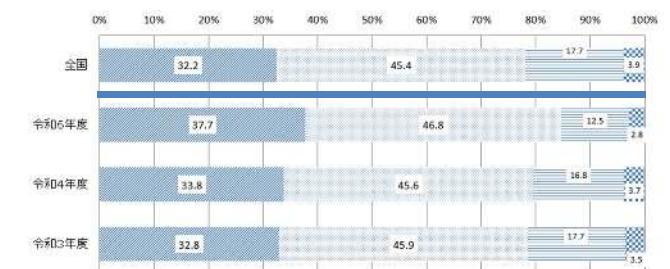


○ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

【小学校13】



【中学校13】

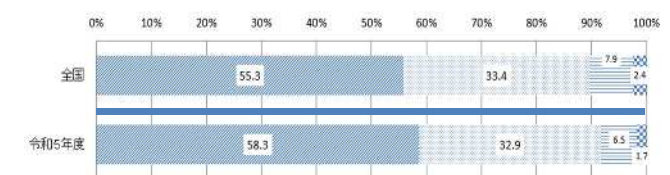


○ 友達関係に満足していますか。

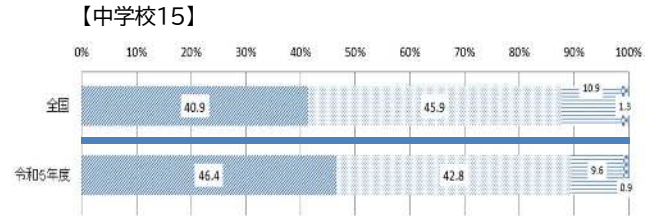
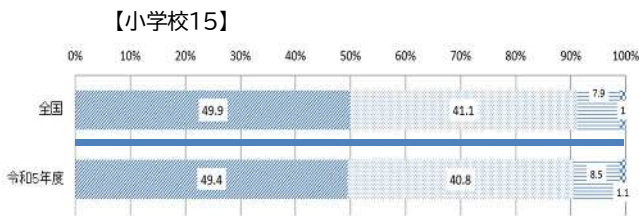
【小学校14】



【中学校14】



○ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



<考察>

○ 「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問について、小学校では肯定的回答の割合が全国平均を0.3ポイント下回り、中学校では肯定的回答の割合が全国平均を4.3ポイント上回っていました。

しかし、小学校・中学校ともに、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」「友達関係に満足していますか。」においては全国平均を上回っていました。このことから、学校教育の中で友達と関わり合う活動を大切にしていると考えられます。

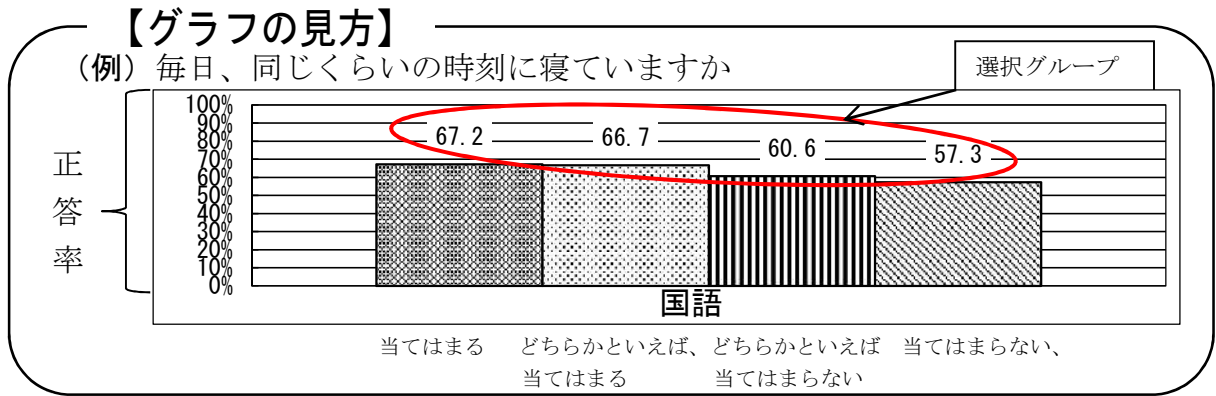
今後も、肯定的回答を100%に近づけていくために、日々の授業を充実させたり、仲間づくりの取り組みを積み重ねたりしていく必要があると考えています。

○ 「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問は、ともに全国平均を上回っていました。本市の子どもたちは、学校において様々な友達や先生と関わり合う中で、このような意識を育てていっていることが考えられます。

今後も、各学校において、教育活動全体を通して児童生徒の自己肯定感等を高めることで、自分だけでなく周りを気遣える子どもを育てていきます。

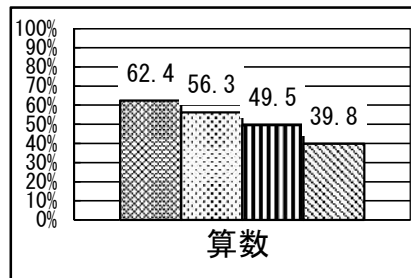
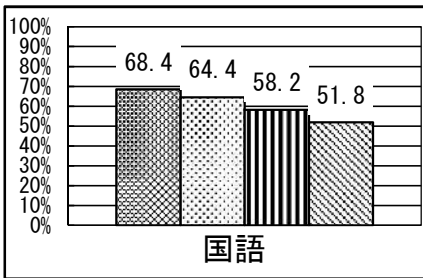
○ 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」の質問については、小学校は全国とほぼ同等、中学校と全国平均を上回っていました。教育活動等を通じて、子どもたちに「わかった」「なるほど」など、授業を理解できたという達成感を味わわせることができる授業づくりや、子どもたちが安心できる学校づくりを、各校にて取り組んでいきます。

(5) 生活習慣と学力の関連 (クロス集計)



○ 朝食を毎日食べていますか。

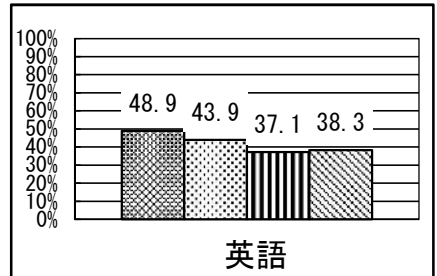
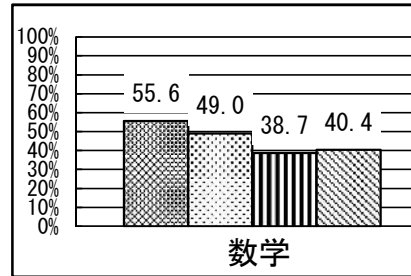
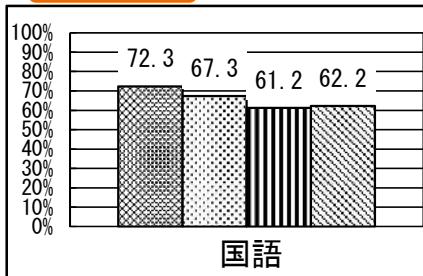
小学校



朝食をきちんと摂ることはとても大切だね。

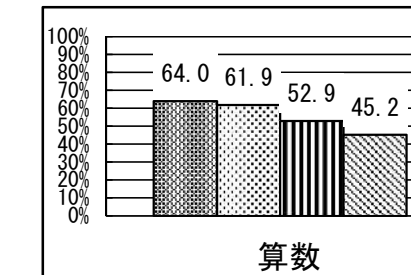
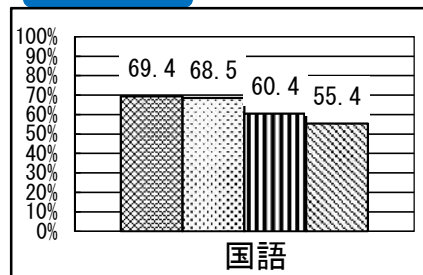


中学校



○ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

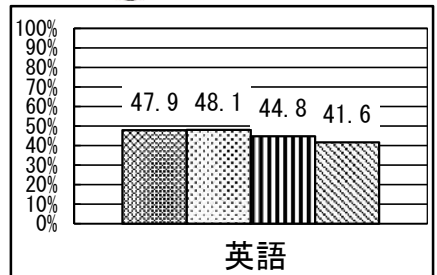
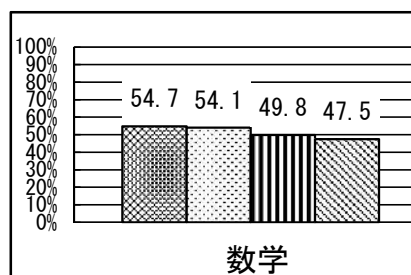
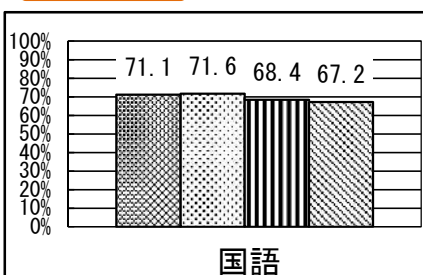
小学校



睡眠の時間を保障し、正しい生活リズムで過ごすことが大切だね。

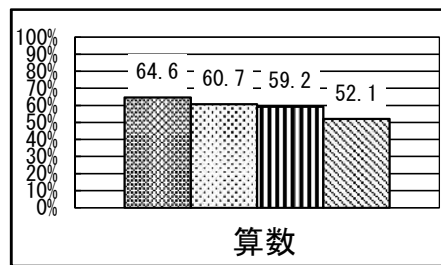
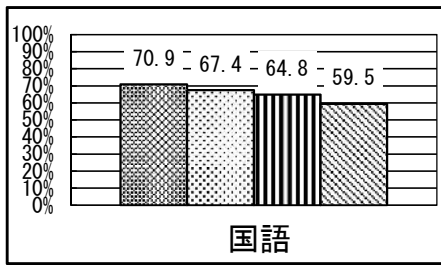


中学校



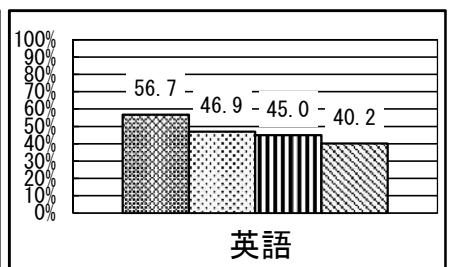
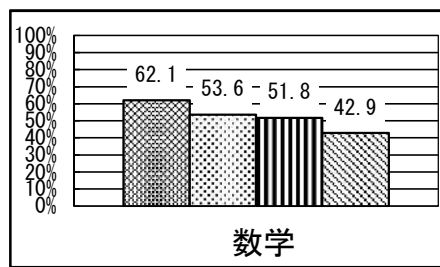
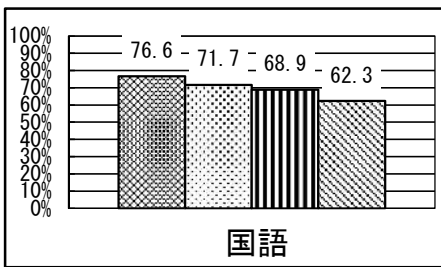
○ 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)

小学校



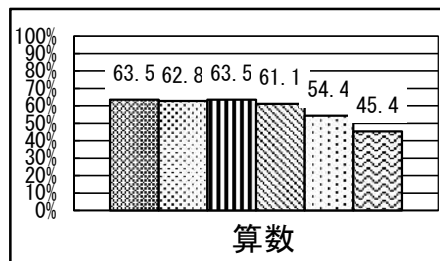
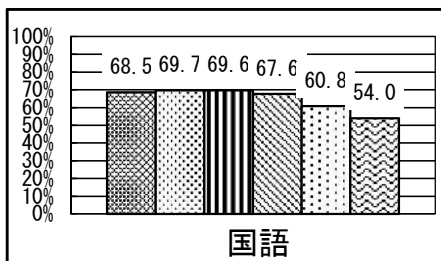
学習の時間を1日のスケジュールの中に入れて、計画的にすることが大切だね。

中学校

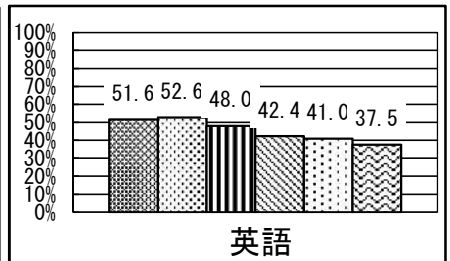
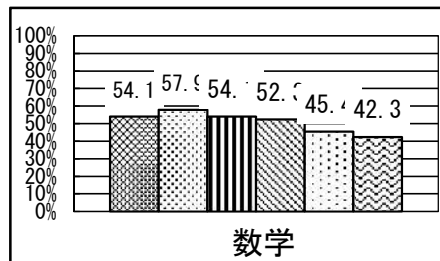
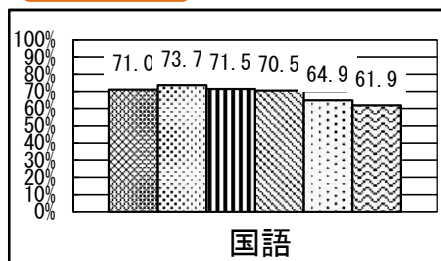


○ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

小学校



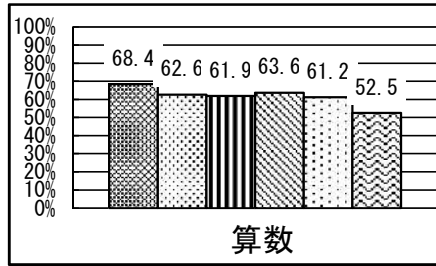
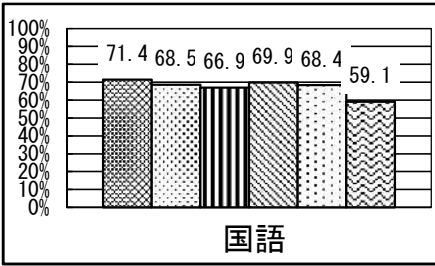
中学校



左から 3時間以上 2時間以上、3時間より少ない 1時間以上、2時間より少ない 30分以上、1時間より少ない 30分より少ない 全くしない

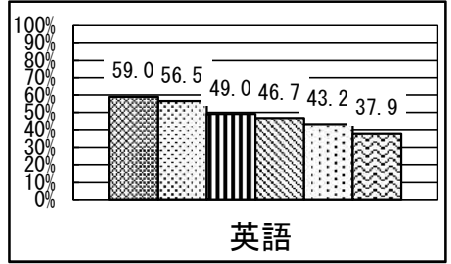
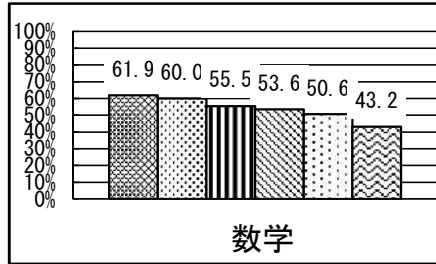
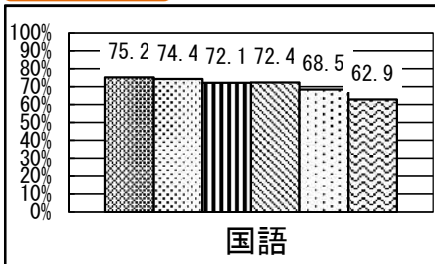
- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

小学校



自分にあった学習時間を見つけていくことが大切だね。

中学校



左から 4時間以上 3時間以上、4時間より少ない 2時間以上、3時間より少ない 1時間以上、2時間より少ない 1時間より少ない 全くしない

<考察>

- 以上の結果から、生活習慣に関わる各質問について、学力との相関関係は高いことが分かります。今後も、睡眠や朝食、家庭学習の習慣化など、基本的な生活習慣を整えていくように指導することが大切です。

6 学校質問紙の結果について

(1) 全国学力・学習状況調査問題の活用

すべての質問において、小中学校ともに肯定的回答が100%となっております。各学校で自校の結果を分析し、学校全体で教育活動を改善するために活用したり、指導計画等へ反映させたりしていることがわかります。

また、自校の結果を保護者や地域に対して公表し、今後の改善方針を明らかにし、取り組んでいる姿勢が見られます。

※肯定的な回答をした割合

調査項目	小		中	
	本市	全国	本市	全国
令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	100	96	100	93
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	100	92.2	100	88.1
令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)	100	88	100	81.1

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

小中学校のほとんどの質問において、全国平均と比較して高い割合を示していることがわかります。

「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」の質問では、全国平均と小学校は少し下回り、中学校は上回るという結果でした。また、「学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くこと」の質問では、小学校は全国平均を上回り、中学校は下回るという結果でした。子ども自身が課題を自ら設定することや、それを表現させることに課題を感じていることがわかります。

一方、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むこと」「自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うこと」「自分の考えを相手にしっかりと伝えること」「各教科等で身に付けたことを課題解決に生かす機会の設定」等は、小中学校ともに全国平均を大きく上回っており、「四日市モデル」(問題解決能力向上のための5つのプロセス)等を学校全体で意識して取り組んでいることがわかります。

調査項目	小		中	
	本市	全国	本市	全国
調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	91.9	88.9	95.5	88
調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	91.9	79	81.8	81.6
調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	97.3	87.7	100	88.8
調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	91.9	83.4	95.5	86.2
調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか	94.6	91.4	95.4	96
調査対象学年の児童生徒生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	100	93.1	100	90.9
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	91.9	94.3	100	94.2
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	89.1	90.4	90.9	87
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	97.3	89	90.9	87.7
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	97.3	85.6	95.4	78.6
調査対象学年の児童生徒に対する指導に関して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか	81	84.6	77.3	64.7

(3) 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳の指導方法

すべての質問において、小中学校ともに全国平均を大きく上回っております。総合的な学習の時間では、「探究的な活動」を意識して取り組んでいる学校が多くあることが分かりました。また、学級活動や道徳の授業においては、子どもたちが自分の思いや考えを伝える活動を大切にしていることが分かりました。

調査項目	小		中	
	本市	全国	本市	全国
調査対象学年の児童生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	97.3	92.7	95.4	92.1
調査対象学年の児童生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	97.3	94.3	100	93.9
調査対象学年の児童生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っていますか	100	93.1	100	92
調査対象学年の児童生徒に対して、特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	100	96.5	100	96.9

(4) 小学校教育と中学校教育の連携

すべての質問において、小中学校ともに全国平均を大きく上回っております。指導方法や指導体制を共有し、段差のないなめらかな接続を図るために、就学前から小中学校が連携を密にし、一貫性、連続性のある指導を行い、学びの一体化の取組が推進されていることがわかります。

調査項目	小		中	
	本市	全国	本市	全国
前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	89.2	60.6	95.5	66.8
前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	94.6	58.2	95.4	67.3
令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	89.2	53.6	90.9	54.7

(5) ICTの活用

小中学校の多くの質問において、全国平均を上回っています。今後も、すべての教科等の授業の際に効果的に活用するとともに、児童生徒に対しても、自らの学習を支えるツールとして活用できる力を育てていきます。

調査項目	小		中	
	本市	全国	本市	全国
前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	97.3	88.5	95.4	89.1
教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	97.3	95.9	100	91.5
コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか	97.3	87.4	100	82.5
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	100	90.6	100	86.7
調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	70.2	70	90.9	64.6
調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	67.5	45.8	81.9	44.2
教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	67.6	53.1	72.7	48.7
調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	45.9	40	50	33.7
調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	83.8	45	72.7	35.7
前年度に、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童生徒が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか	10.8	5	13.6	5.8
教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか	91.9	62.8	100	61.6
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	64.9	32.5	100	40.9
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(1)不登校児童生徒に対する学習活動等の支援	45.9	28.7	40.9	38.1
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(2)特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援	48.6	50	54.6	44.7
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(3)外国人児童生徒に対する学習活動等の支援	21.6	12.5	27.3	11.7
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(4)児童生徒の心身の状況の把握	48.6	31.3	45.5	30.9
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(5)児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援	27	8.6	31.8	11.5

(6) 家庭学習

小中学校の全ての質問において、全国平均を上回っています。今後も、家庭学習について校内の教職員で共通理解を図るとともに、家庭での学習方法について伝えていく必要があります。さらに、家庭学習と授業の課題を関連付けたり、授業改善につなげたりしていきます。

調査項目	小		中	
	本市	全国	本市	全国
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか	97.3	90.8	90.9	84.6
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	97.3	95.7	95.5	90.9
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか	97.3	90.6	90.9	84.4

7 今後の取組の重点

1 全国学力・学習状況調査の活用等

(1) 学力調査に関わって

- 全教職員が問題を解くことで、出題のねらい、今後求められる力等を把握するとともに、調査実施後、児童・生徒の解答類型から、つまずきを把握・分析して指導の重点を明確にする。
- 全国の結果との比較や、経年での変化を把握することで、学校としての強み・弱みを明らかにし、全校及び学年で、学力向上に向けた取り組みを進める。

(2) 学習状況調査に関わって

- 学習状況調査の結果と学校の取り組みと照らし合わせることで、指導の効果を検討・改善する。
- 学校質問紙を併せて分析することで、児童・生徒と指導者の意識のズレを把握し、指導改善につなげる。

(3) 「学びの一体化」と関わって

- 本調査で得られた強み・弱みについて、中学校区で共通理解を図り、発達段階に応じた指導方法等の連携を図る。
- 家庭学習や補充学習について、従来の方法を見直すなど、さらなる改善に取り組む。
- 保護者への働きかけの充実を図る。
 - ・ 家庭学習の定着、自主学習ノートによる定着、シラバスやHPを活用した家庭への啓発 等
 - ・ 補充学習の充実、長期休業及び放課後等の学習、「全体」と「個別」の補充学習の検討 等
 - ・ 課題について調べ自分の考えをまとめるなど、知識・技能の活用を目指す宿題 等

2 「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック3」を活用した授業改善

ポイント① 単元や題材の構成や授業展開の中で「つきたい力」を明確にする。

ポイント② 授業の中で表出する子どもたちの姿をイメージし、「つきたい力」をつけさせるためのしかけを考える。

ポイント③ 振り返りを大切にするとともに、次の学習の指導改善に役立てる。

(1) 第1プロセス「問題の理解」

- 学習課題等の設定により、児童生徒の問題意識や解決しようとする意欲を喚起させる。

【学習課題等の提示】

- ・ 身に迫った切実感のある課題を提示するなど、児童生徒が考えざるを得ない状況をつくる。
- ・ 「～を活用して」など知識や技能の活用や、「ペアで～しよう」など協働的な学びを促す。
- ・ 「なぜ？」と根拠や原因を考えさせたり、「～を説明しよう」などアウトプットを意識させたりする。
- ・ 実生活、実社会などにつながる学習課題や問題等を工夫する。

- 学習課題等と合わせた「授業のゴール」を子どもの姿として設定する。【評価規準の明確化】

(2) 第2プロセス「問題の特徴づけと表現」

- 問題意識等を大切にしながら、解決するための糸口がつかめるように支援する。【問題解決の見通し】
- 見通しを持たせる場面において、ICT機器を効果的に活用する。【指導者のICT機器の活用】

(3) 第3プロセス「問題の解決」

- ねらいに合わせた主活動（言語活動等）を設定する。【主活動の時間確保と言語活動の充実】

- 児童生徒の問題意識等に合わせて、自力解決をしたり、互いの考えを交流したりすることができるようにする。【個の問題意識に合わせた解決（学び合いを含む）】
- 児童生徒のつまずきとそれに合わせた支援を準備する。【つまずきへの適切な支援】
- 児童生徒がICT機器や思考ツール等を活用できるようにする。【児童生徒のICT機器等の活用】

(4) 第4プロセス「解決方法の共有」

- 児童生徒が自分の考えを説明したり、資料等を提示して根拠を示したりするような学習活動の充実を図る。【アウトプットする場の設定】

(5) 第5プロセス「問題の熟考と発展」

- 授業のねらいや学習活動を踏まえ、児童生徒自身が「何を学んだのか」、「何ができるようになったのか」を実感できる振り返りを行う。【学習の振り返り】
- 他の単元へのつながりや教科横断的な視点、さらに日常生活への活用を意識する。

【実社会・実生活につながる汎用的能力の視点】

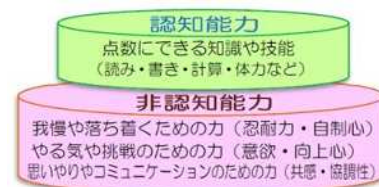
3 「学習の基盤となる資質・能力」の育成

各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）について、教科横断的な学習を充実させることで、その資質・能力の涵養を図る。

言語能力	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の働きや役割に関する理解、言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け、言葉の使い方に関する理解と使い分け、言語文化に関する理解等 ○情報を理解したり、文章や発話により表現したりするための力 <ul style="list-style-type: none"> ・創造的・論理的思考の側面 ・感性・情緒の側面 ・他者とのコミュニケーションの側面 ○言葉を通じて、社会や文化を創造しようとする態度、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする態度、集団としての考えを発展・深化させようとする態度、心を豊かにしようとする態度等
情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> ○学習活動において必要に応じて情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりすることができる力 ○情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等
問題発見・解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科等における問題の発見・解決に必要な力、各教科等で身に付けた力を統合的に活用する力等

4 非認知能力(社会情動的スキル)の育成

認知能力（点数化することができる力）の土台となる「非認知能力」（点数化が難しい力）について、全ての教育活動を通じて涵養を図る。非認知能力は、学びに向かう力、人間性等の育成に欠かせない力であり、キャリア教育とも関連させて、自分が意識して伸ばす能力を見つけさせ、意図的・計画的・系統的に育成していく。



四日市市における学力向上の全市的な4つの取組の充実

- 【取組1】 本調査問題の活用
- 【取組2】 本調査趣旨等を踏まえた授業改善
- 【取組3】 学習習慣の確立と学力補充の充実
- 【取組4】 継続的な学びへの取組

8 参考資料

○ 国立教育政策研究所

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

- ・ 令和5年度全国学力・学習状況調査 解説資料
- ・ 令和5年度全国学力・学習状況調査 報告書
- ・ 授業アイデア例

○ 文部科学省

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

- ・ 小中学校学習指導要領、解説
- ・ 小中学校学習指導要領等の改訂のポイント
- ・ 社会に開かれた教育課程
- ・ 育成すべき資質・能力の三つの柱

https://www.mext.go.jp/content/20210329-mxt_syoto02-000012321_1.pdf

- ・ 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

○ 内閣府等

https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html

- ・ Society 5.0

○ 外務省等

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

- ・ SDGs 関係資料

○ 三重県教育ビジョン(三重県／三重県教育委員会)

○ 小・中学校教育指導方針～生きる力 共に生きる力をはぐくむ教育～(四日市市教育委員会)

○ 問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック3(四日市市教育委員会)

など